

第2回「長野県信濃美術館整備検討委員会」議事録

○開催日時 平成27年6月18日（木）14：00～16：00

○場 所 長野県信濃美術館 講堂

○出席者

（委員）竹内順一 委員長、金井直 副委員長、赤羽直美 委員、上山信一 委員、菅野幸子 委員、奥恵理香 委員、近藤誠一 委員、山岸恵子 委員

（特別委員）橋本 光明 委員

（長野県）県民文化部長 青木弘、県民文化参事兼文化政策課長 阿部精一

1 開 会

（竹村企画幹兼課長補佐）

皆様、本日はお忙しい中、またご遠方よりお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまより第2回長野県信濃美術館整備検討委員会を始めさせていただきます。私、長野県県民文化部文化政策課の竹村でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは開会に当たりまして、青木県民文化部長よりごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

（青木県民文化部長）

皆様、こんにちは。本日は本当にお忙しい中、第2回の検討委員会にご出席をいただきましてまことにありがとうございます。第1回目の検討委員会では、今後の進め方も含めまして、大変多くのご意見、ご指摘を頂戴したところでございます。その後、事務局といたしましては、美術館の関係者の皆様のご意見を伺ったり、また高校生・中学生のご意見等も伺うなど、準備も進めてまいったところでございますが、いよいよ来月からは作業部会も予定をさせていただいているところでございます。本日の議論を通じまして、具体的な内容の検討の段階に入ればと考えているところでございますので、大変タイトな日程で大変申しわけございませんけれども、委員の皆様にはよろしくお願いをしたいと思います。開会に当たりまして、簡単でございますけれども、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（竹村企画幹兼課長補佐）

本日もご出席の委員についてでございますけれども、次第の次に出席者名簿をおつけしてございます。本日は、黒田委員、堀内委員、益山委員、柳沢委員、4名の委員がご都合によりご欠席でございます。8名の委員の皆様と特別委員の橋本館長さんにご出席をいただいているところでございます。

それでは、議事に入らせていただく前に、資料の確認だけ簡単にさせていただきたいと思えます。次第、名簿に続きまして、資料1-1と1-2ですが、スケジュール関係の資料でございます。資料2-1から2-2、都合A4・1枚、A3・2枚でございますが、今回の美術館検討に係る意見聴取等の状況をまとめたものでございます。資料3はコンセプト・役割・機能についてまとめた資料でございます。資料4が、最近整備された、あるいは近々整備される美術館のコンセプト等とコレクションポリシー、収集方針等について、4-1、4-2でまとめさせていただいております。最後の資料5ですけれども、作業部会での検討事項ということで、案で申し上げます。あわせて参考資料としまして、主な意見は資料2-2に入れてございますけれども

も、信濃美術館のスタッフのアンケート等、3種類のアンケートの結果をまとめたものをおつけしてございます。以上でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきたいと思いますので、進行は竹内委員長さん、よろしくお願いいたします。

3 議 題

(竹内委員長)

本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。これからいよいよ内容の話になるわけですが、資料配付が漏れている方は事務局までお申し出いただければと思います。

それでは、早速、議題(1)から入りたいわけですが、その前に、少し時間をいただきまして、この配付された資料を見たときに、ちょっと変わっているのではというところがあると思いますので、申し上げたいと思います。

4月23日に第1回の委員会が終わった後、あまりにも膨大な資料が出ましたので、少し整理しないと無理ではないかということで、私と、副委員長の金井さんと、それから、ご意見を非常に強くお持ちの上山委員に集まっていただき、6月の初めに、県の文化政策課の職員にも来ていただきまして、長野県の東京事務所で少し論点整理を試みました。後で詳しく申し上げますが、その結果を資料3に反映しております。つまり、私の心配しているのは、やることが山ほどありますので、少し整理しないと、全て作業部会に全部丸投げして、ここは主なところをやったということに過ぎず、作業部会も、2回かあるいは多くて3回ぐらいと、予定ではたくさん開かれるわけじゃないので、全て具体的に決めるのは、ここが程度方向性を出さないといけないと思いました。

その中で、私どもが検討したのは、基本構想があるんですけども、やはり大事なところは、コンセプト、あるいは役割・機能などをこの整備方針を絞り込んでいかなないと始まらないだろうということであります。管理・運営など、山ほど検討しなくてはいけないことはあるんですけども、少し論点整理をして絞り込ませていただいたのが、資料3です。ですから、ご覧になったときは、少し変わっているんじゃないかと思うところは、また後でご説明いたします。

その中で、いわゆる基本戦略という言葉で整理したんですけども、今後、進んでいただきたいというものをまとめました。作業部会でもかなり絞り込んだ形で議論していただけるのではないかと思います。

さらに、これは作業部会の話になるわけですが、いろいろな概念とか、あり方とか、あるいはいろいろな空間のことを議論するわけですが、それだけでは、善光寺の隣にあるこの美術館のあり方というのはイメージが湧きませんので、それまでの議論を踏まえて、少し絵に描いてもらったらどうかと思います。こんな美術館ができそうですとか、本館はこうなりますとか、新しい館をつくるとしたらこうなりますとか、庭はこうですとかということで、ランドスケープという言葉がありますが、いわば簡単な俯瞰図、絵にしたもので、こんな美術館になりますというようなことまでやっていただければ、この次の議論が進むだろうと思います。

実は、6月7日に、松本市美術館で専門家の意見交換会を開かせていただきました。いわゆる公聴会と呼んでおり、私も傍聴したわけですが、そこで各界からいろいろな意見が出ました。ご意見を聞いていると、出てくるイメージは、大体、金井さんと上山委員とやったことの想定内のことだったので、これでいけるのかなと思いました。そのようなことで、1回目の委員会から2回目の委員会の間に資料が微妙に入れかわっていますので、よろしくお願いいたします。それだけは、なかなかここでは言えないので、具体的に資料を見てからご意見を伺いたいと思います。それが冒頭で少し申し上げておきたいことです。

(1) 信濃美術館整備検討の今後の進め方について

(竹内委員長)

それでは、第1議題の、今後の進め方について、事務局からお願いいたします。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

資料1-1、資料1-2を説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。今、大きな流れと、それから何をすべきかということが説明されたわけですが、これについてのご意見はございますでしょうか。あるいは質問等ありましたらどうぞ。まだ、突然これでどうだということではないかもしれませんが、また後で戻りますので、またお気づきになったら戻っていただいても構いませんが、何かありますか。

それでは先に進めさせていただいて、また何かありましたら後でご意見を頂戴したいと思います。

(2) 信濃美術館整備検討に係る意見聴取等の状況について

(竹内委員長)

それでは、資料2、議題の(2)の意見聴取ですね。ご説明お願いできますでしょうか。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

資料2-1、資料2-2を説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。美術館でもいろいろなアンケートをとっているし、ここでもとっているわけですが、どうしても、美術館に関心のある入館者を対象にとりますから、バイアスがかかってなかなか本当の本音を聞くのは難しいので、こうして、中学生の80何%が行ったことがないとか、作家の知る・知らないとか、とてもおもしろいアンケートですね。本当は、こういうアンケートが一番重要だと思います。参考資料も含めて、このアンケート結果に何かご意見ございますでしょうか。はい、どうぞ。

(上山委員)

今、委員長おっしゃったとおり、県民の美術館意識を、特に若い世代に重視して聞いてみるという作業は、非常にユニークですね。よそではあまりこういうところから始めない。ただ、ありがたい姿をいろいろ聞くのはいいけれども、いろいろな人がいろいろなことを思いつきで言うわけで、お金の都合もあるし、いろいろな技術的な制約などもあるので、結局、これを最大公約数的に足してみると、全くわけがわからないものができてしまうと思うんです。なので、美術館の利用促進のために相当作戦が必要だというぐらいの意味は、今回ここから出てきたと思うのですが、どういう美術館にするのかという戦略は、今のアンケートからはそんなに出てこない。願望というのは、ある程度とれるけれども、こうしたらうまくいくというところまでは、やはり一般の方にくら聞いても出てこないという問題があると思う。

あともう一つ非常に重要なのは、出てくる意見が、現状評価なのか、それとも願望なのかというのは、よくわかりません。これは、やはり聞く相手によっても違うと思いますけど、きっちり整理する必要があると思うんです。現状評価というのは、学芸員の意見というのは一番わかり

やすいし、入館者の苦情みたいなものも非常にわかりやすい。海外の美術館などで建てかえのときにやる作業というのは、建てかえのときの意見聴取の人をモニターで募集して、中のドーセントツアーをやって、中の収蔵庫まで見せて、その上でここはどうあるべきだと思いますかという話をその場で聞く。そうすると、評価もするし、無責任な思いつきは言わないし、お金の都合などいろいろなこともわかる。ここのメンバーがある意味でそれをやっているのかもしれませんが、あまり広く一般の人に、ある日突然急に、県立美術館はどうあるべきですかと聞いても、特に高校生・中学生に対しては非常に意味があると思いますけど、そんなことはふだん考えてない人が大多数なので、今までやられた作業以上にこういうことをあちこちでやってみても、役に立つものが出てくる感じはしない。

これが、すごく一般的な施設、あるいは誰も見たことがないもの、初めて県に病院ができるのか、あるいはみんながよく知っている県民プールとか、そういうものならどうあるべきかのようなものだといい。だけど、美術館というのは、一般の人にご意見を聞いても、なかなか使える意見が出てこないという現実がある。こういうことは誰かが言わないといけないので私が言っていますが、役所としては、県民の意見を広く聞いたのかと言われるので、聞かざるを得ない。それはわかるけど、過去のいろいろなパターンを見ていると、聞いたところで役に立つものはなかなか出てこない。ただ、気をつけなければいけない、やってはいけないことのリストはすごく出てくる。授乳室がどうしたとか、利用者の苦情的なところ、そこは、私は非常に大事だと思う。

作業部会の作業を経て、整備方針ができたような段階でプレゼンテーションでもしてご意見を聞くんだったらいいかなと思います。予定されているものはやられてもいいかなと思いますけど、ふわっとどうですかと言っても、使える意見がなかなか出てこない気がします。

(竹内委員長)

ありがとうございます。アンケート、どの美術館でもそうで、展覧会ごとにいろいろな講座、プロジェクトごとにやっていますが、ごもっともな意見だと思うんですね。アンケートによって、何か新しいことができるということはなかなかないんです。ただ、今、上山さんがおっしゃったように、いくつか本音が出ていますから、これはやはり大事にしたいと思います。県立である以上、こういう作業はどうしても段階が必要なので、私初めて見るような意見がありますから、これはぜひ活かしていきたいなと思います。

むしろ、これは私の持論なんですけど、アンケートをとる場合は、自分たちのやったことが予想どおりになっているかどうかを確認するためのアンケートというものはとるんですね。そういう視点で見ないと、これで新しいご意見を頂戴したり、新しい方針を頂戴して、では今度はこうしようというわけにはなかなか難しいと思います。間もなくいろいろな形で新しい美術館のイメージがわかってきたら、その段階でまた必要なアンケートをとればいいのですが、この基礎調査はどうしても必要ですので、非常にありがたいと思って見ていました。中身の意見は上山委員と同じです。

(近藤委員)

近藤でございます。初めてこのアンケートを拝見して、すばらしいと思いました。これだけ広範にわたって基本的な意見を聞いていただいて、大変参考になると思います。もちろんここにあることを全部実現することはできませんが、これから我々がグランドデザインをつくるときに必要なポイントの方向性を抽出することができます。例えば、今回の「整備」は、博物館とその地域をゾーンとしてとらえ、公園と合体することで、大きな県の拠点、日本の拠点にすることを目指すのか、それとも基本構造は今のままにして、細部を補修、整備するに止めるのか、その辺の大きなグランドデザインを描くに当たっては、ぜひこの中の意見を参考にして早いうちに決めていくことが必要です。その段階で酌み上げるべきものと、その後、具体的に、どの部屋をどうす

るかとか、地下を何階にするかとか、そのような課題について議論する時に役に立つものがあるでしょう。いずれにせよ、貴重な意見がたくさんありますから、それを吸収して各段階でそれを反映していく。そういうふうにし少し整理していくと、こういった膨大な情報もうまく、より一層効果的に使えると思います。

私が一番印象に残ったのは、使いやすい、気軽に行けるものを求める人が多いということです。最近の若い子はみんなそうですよね。門構えがしっかりしていると、臆してしまう。付き合いやすい、入りやすいということが大変大事なようですので、立派な門構えのもの、クオリティーが高いものを追求する時代ではもはやないのかもしれない。中身はしっかりしてなくちゃいけないけれども、やはり市民の方々、高校生がぶらっと来て入ってみようと思う。入ったら楽しいなと、今度、家族で来ようと思う、そういうのは、グランドデザインのときから考えて、できるだけ反映したほうがいいかなと思います。詳しく読めば、たくさんコメントがでてくると思いますが、時間の制約もありますので、とりあえずこの2点を感じましたので申し上げました。

(竹内委員長)

ありがとうございました。いろいろ思いがあると思うんですが、ほかにいかがですか。率直にご意見いただければ。

(菅野委員)

私は、高校生と中学生の方たちのアンケートっていうのが、読んでいて大変おもしろかった。県立美術館は、なかなか敷居が高くて、お子さんたちだけでいらっしゃるというよりは、やはり家族連れでいらっしゃるということが多かったというのが、読んでいてわかりました。お子さんたちなりに、幅広い年齢層であるとか、入場料を無料にしてほしいとか、若者のアートプロジェクトを支援してくれる、自分たちが体験できる、触ったりできる美術館が良いという意見というのは、すごく貴重な意見だと思うんですね。今の市民向けの美術館のコンセプトは、まさにそういったところを取り入れられたような形で実現されているので、お子さんたちの意見というのは、読んでいてやはり重要だと思いました。

こういったアンケートも、もちろんプロの目から見たということも必要だと思いますけれども、今の文化施設は、どんどん市民に開かれていく役割というものがあるって、前回、県立美術館としてのネットワークの重要性などについて申し上げましたけれども、他方で、今、国内外で多くなっているのは、やはりどれだけ若い人たちや多様な年齢層の人が楽しめるか、触れるか、感じられるか、体験できるかということが、重要な要素になっていると思います。以上です。

(竹内委員長)

ありがとうございました。ほかに。

(金井委員)

金井です。本当に多様な意見で、こういう関心を持っていただける、これ自体が次の機会につながると思いますので、とても意義のあるアンケート群だと思っております。後の作業部会にかかわる身としましては、意見交換会の中で出ていた、箱物をつくる時代ではない、地域全体を美術館とする場づくりをといった言葉、もちろん箱も必要だと思うんですけれども、同時にこういったご意見が上がってくるといこと、これは真摯に受けとめて進むべしと思っております。

それからもう一つ、このアンケートの中で割と顕在化しているポイントで、なおかつ私たちがこの委員会の中で入り込みにくいところが、人の問題かと思ひまして、そのことはこの段階で強く意識しておくべきかと思ひました。職員さんアンケート、協議会、意見交換会、おのおのの場

面で、職員さん、学芸員の方の、数であるとか、あるいはその専門性であるとか、あるいは就労環境であるとか、人材育成という言葉も出てまいります。要するに、先ほどの議題に戻りますけれども、資料1-1で事務局よりお示しになりました、平成27年度の我々の整備方針検討をいかにスムーズに、平成28年度の管理・運営等についての検討へつなぐかという、このかじ取りが極めて重要だということが、改めてこのアンケートによって浮かび上がっている。私の理解はそういったところにもございます。以上です。

(竹内委員長)

ありがとうございました。今、このアンケートについてご意見いただいて、まだまだ気がつかれることは多いと思いますが、運営の問題にもかかわってきますので、またお気づきになりましたら戻ってご議論いただいてもいいと思いますので、先に進めさせていただきます。

(3) 信濃美術館整備方針（コンセプト・役割・機能）について

(4) 新美術館に関する基本戦略について

(竹内委員長)

次のここが、今日冒頭で申し上げたとおり、コンセプト、今後の整備方針にかかわる大事なところですので、次の資料3、議題(3)に移らせていただきます。それでは阿部課長、お願いいたします。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

資料3、資料4-1を説明。

(竹内委員長)

どうもありがとうございました。これが今後のことになりますので、大いに議論いただきたいです。資料3で、一覧表の最後のところに、新美術館に関する基本戦略という言葉でまとめさせていただきました。もちろん、関連する施設等も含みます。星印で強調しているし、それから各細目については小さな字で書いてあります。今後、この素々案が、「素」が一つとれて素案になって、最後、案になればいいと思います。これをご覧になってすぐご意見をというのはちょっとつらいところがありますが、強調しているところはここに出ていますので、ご意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

(上山委員)

この素々案自体は、資料としてうまくまとまっていると思うんですが、ただ、これを見てもなかなか議論しにくいと思うんです。上に書いてある信濃という文字、善光寺など全部消したら、明日、青森県へ持っていっても使える資料です。いきなり辛らつなことを言いますが、つまり、厳しい現状評価が要ると思うんです。厳しい現状評価は、公開の会議で言うべきものではない部分もあるかもしれないけれども、少なくとも事務局の中では、今のうちの県立はよそと比べてどうなんだとか、あるいは新幹線の動線上にある金沢と比べてどうなんだという、厳しい現状分析が先にあって、その上で、最後、こういうきれいなコンセプトになってくるべきだと思うんです。

実は、そういう意味で前回、学芸員の意見が聞きたいと言ったんですけど、この参考資料で聞かれた意見というのは、日常の作業の話ばかりなんです。これも、実はすごく当たり前のことしか書かれてなくて、もっと深い議論をしないとイケないと思う。うちの県の美術館のあり方としてどうなんだという話をしないと。虫害対策はどうしたとか、こういうことも大事だし、話の中

では当然出てくるけれども、そもそもうちの県の美術館ってどうなのという根本的な現状評価です。これは、7月、8月、部会の作業と連動してだと思いますけど、私はかなり掘り下げて深刻に議論する必要があると思う。

私は、長野県の美術館環境、県がやっている美術館の仕事というのはよそに比べて遅れていると思う。だからこそ、今回これが始まっている。ではいきなり大金を払って世界中の美術品を買いまくるのかというと、そうはいかない。前回申し上げたのは、全国を巡回する主要な美術展が、東京、大阪以外どこへ行きますかといったときに、筆頭に長野に持っていかうとなるような、巡回展が好んで来るような美術館という戦略。コレクションが足りないという現実からすると非常に重要だと。それをこのコンセプトに書くかどうかは確かによくわからない。コンセプトではなくて、作戦シナリオみたいなものだから少し違うのかもしれない。だけど、そういう議論をしておく必要があって、それを外すと、設計など全部変わってきてしまう。

それからこの公園を活かしましょうというのは、高校生も同じことを言っていて皆さんすごく思っていることなので、これはすごくいい。では活かすといったときに、どんな建築の活かし方をするのか、ガラス張りで見せるのか、それとも外と中と行ったり来たりなのかなど、そういうレベルのもう一段深いところのコンセプトが要る。だからここに書いてあるのは間違っていないけど、一般原則みたいなものであって、本当の意味でコンセプトと言えるかどうかはよくわからない。公立美術館のコンセプトの資料としては、普通こうなんで、これで足りないとは言わないけど、長野は相当頑張らないといけない。やはりこの一段下のレベルの作業を、少なくとも実務レベルではやっていただく必要がある。

(竹内委員長)

今のご意見について。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

今のありがたいご意見、ちょうど議題が3で、そのコンセプトから機能までを皆さんにご了解いただいた上で、今上山委員さんもおっしゃったような基本戦略という、美術品の収集のようなことにも、この次のところで入っていただこうとしていたものですから、委員長さんにはそのところ整理していただいて、ひとまずは、今までにいただいたご意見を集約した形でのコンセプト・役割・機能の整理だということで、ご理解いただければと思います。それで、それに対して、もう少し膨らましたものということであれば、我々も当然必要かなと思っているんですけれども。

(竹内委員長)

今、少しややこしい議題なんですけれども、資料3と資料4が同じ話題ですので、今、この資料3のところを出たことと、それから資料4、議題としては分かれておりますが、みんな同じことですので、今後の基本戦略についても、資料3と資料4を一緒にしてお話しいただいたほうが、次の第5の議題の作業部会の検討事項がより鮮明になると思いますので、どうぞ、自由にご意見を頂戴したいと思います。

今、上山委員から、信州を素通りして、東京での大きな特別展、あるいは巡回展が行ってしまうのを、ここをちゃんと受け皿にすべきだということは、この基本的なものに入れるかどうかは別だけど、かなり具体的なことなので、そういう議論が必要だということが申されました。私も、今日新幹線で来たんですけれども、北陸に行く人ですごく混んでいて。北陸は2つありまして、富山と金沢。富山も、今、新しい美術館を模索している。金沢は金沢で美術館があります。簡単に言うと、富山・金沢に負けるなということですね。美術館だけじゃないんですけど、長野に降りてもらいたいという、長野で途中下車して、あるいはここへ泊まっていたくためには、美術

館の役割は相当あるんじゃないかと思います。長野県に大規模な巡回展があまり今まで来ないですよね。その辺も含めて、少しご議論いただいてもいいのかなと思っていますが、いかがでしょうか。

(菅野委員)

考え方の整理と申しますか、ハードウェアで考えられる部分とソフトウェアで考える部分というのを考えた上での美術館の機能整理というのが必要だと思います。いろいろなコンセプトが提示されていますが、それは上山先生がご指摘されたように、ハードウェアで解決できる部分と、巡回展であるとか、デザイン的な分野も必要であるとか、コンテンツの部分で考えて解決できる部分と両方あるので、それは一緒に議論するよりは、分けて考えてやったほうがわかりやすいと思うのと、それから竹内先生がおっしゃったように、この美術館の置かれている地理的な位置ということも非常に重要かと思っています。富山県、それから石川県に金沢21世紀美術館もできたばかりですし、それに加えて山梨県の県立美術館もあり、比較的ここを取り巻くところの県立美術館というものが新しく作られてきている。そうすると、それらとのコンセプトの比較対照と、県内の美術館でのその役割分担というところがあり、いくつかそのようなところと比較対照することによって、この立ち位置が決まってくるということがあるかと思っています。さらに、県民の皆様からのご意見もあると思うんです。そういったことも含めて、やはりハードとソフトとを、機能を分離させて考えていったほうが考えやすいと思いました。

(近藤委員)

先ほど上山委員が、これはどこの県立美術館にも当てはまるものだとおっしゃった。なるほどそうだなと思いました。それならば、なおこそ、長野のあの美術館はこれなんだというような、長野らしさをどこで示すのか、何か周りの環境との関係で独特のものができるのか、それとも建物自体がとてもユニークで、とにかく建築家が見に来るようなものにしたいのか、こうしたハードの基本を早めに決めるということが大事だと思います。

例えば私も文化庁にいるところに、博物館同士とか、音楽ホール同士を見比べたんですが、例えば東博（東京国立博物館）とルーブルとか、新国立劇場とオペラ座を比べると、訪問者数が桁違いに違うんです。向こうが多いのは、建物を見に来る人がいるんですね。日本は、東博の建物を見に来る人はいませんよね。新国の建物を見に来る人もいない。いいかどうかはわかりませんが、建物でひきつけるというのも一つの案です。その辺も含めて、ユニークな長野、この新しい美術館はこれなんだという、それを決めることが大事かなと。

(山岸委員)

一県民としましては、ボルテージが上がってとてもいい感じの見解をいただいていると思います。実際、どういう美術館ができるのか、企画展を重視するのか、それとも県民ギャラリー展示スペースも造っていただけるのか。県民ギャラリーが併設されるとしたら、どのぐらいの館のスペースに持って行っていただけるのかと、利用する側はそこまで現段階で期待し考えます。

東京国立新美術館を例えれば、企画展示室と、公募団体にお貸しするスペースというのは、全く別の階で分かれています。新県立美術館において県民ギャラリーの組み込まれる方、企画展示室のスペースを大きな公募団体の巡回展などのときにお借りできるのか。全く別のスペースに県民貸ギャラリーを設けていただけるのか、どのような構想があるのか期待するところです。それから3番にあります善光寺を巻き込んでの美術館というのは、善光寺の観光で訪れる人と、美術館に訪れる人というのは、目的が違います。善光寺観光に来ただけけれども、県立美術館にも行くこうというのは、それは長野市のまちづくりから始まっている。長野市と一緒に総合的な都市計画と主体的な「美術」を支えるプログラムを構築していただきたい。

(竹内委員長)

今のご意見で大事な点は、国立新美術館が、公募展の貸しギャラリースペースと、それから国立新美術館が独自に展覧会をする企画展スペースと2つに分かれていて。新信濃美術館は、どちらに力点置いたらよろしいか、ご意見がありますか、もしいただければ。

(山岸委員)

どのくらいのスペースということですか。

(竹内委員長)

例えば、公募展は県展にお貸ししたり、あるいは県の書道展にお貸しするという、いわば外に貸し出す部分と、館として独自の企画展をやる場合、どのようなイメージで行けばいいのか。つまり、どちらに力を入れたほうが幸せですか。

(山岸委員)

長野県の県民性から、認知された素晴らしい作品を拝見するのもとても向学心に燃え来館者も増えると思います。また県民には、創作する人がたくさんいる。松本市美術館においては、ふだんは企画展をやっているスペースも県展をするときには、その企画展示室を貸していただける。同様に県立美術館も期待し利用させていただけるのか。

(竹内委員長)

簡単に言うと、両方やりなさいと。いい企画展もやると同時に、またいい貸し出しも十分にスペースがほしいということ。

(山岸委員)

そうですね、県民ギャラリーや美術館を解放することで、県民が美術館に対する理解と思いが構築されていきます。

(竹内委員長)

大事なことですね。どこでもこれが問題になります。この前、松本市美術館で開かれたのが、いろいろな美術団体にもっとたくさん貸し出してほしいと。このアンケートの中でも、壁面が900mほしいとおっしゃっている。だから、やはりそういう要望は、何らかの形で受け取らないと、県立美術館にはならないだろうと。今まで以上に県内の作品展、諸団体に貸し出すスペース、あるいは、今度は小さな規模のグループ展とか、個展にも貸してほしいという要望が必ず出ると思いますので、そういう貸しスペースと、全国的な規模の企画展、特別展にも、両方対応ということになるだろうと。僕は何となくこのお話を聞いたとき、片方だけでは無理だろうと思っております。

善光寺と美術館とは違うんだからもともとというご意見も出ましたが、今後この美術館の非常に具体的なあり方になりますので、ご意見ございますでしょうか。はい、どうぞ。

(赤羽委員)

前回の検討委員会では、お好きに意見をということでもいろいろと言わせていただいておりますけれども、今回、もう建てかえありきで進めていられると思うんです。建てかえることに関してはいいと思うんですけれども、今あるこの美術館、それも壊してのことなのか、まだそこまで行っていないのか、そこのご説明お願いできますか。

(竹内委員長)

県の方から答えていただくのがいいのかもしれませんが、私の理解で申し上げますと、今、ここに私どもがいるここを旧本館としましょう。今までの本館をどうするか。2つ方法がありまして、全部なくしてしまって、そして建てかえるという案も一つありますが、このまま活かすという案もあります。活かすにしても、メンテナンスなどいろいろな問題がありますので、近代化する、要するに施設を直せるところは直す。例えばフラットになってないとか、東山魁夷館との境目もはっきりしないとか、あるいは空調の問題、それからアンケートにあるように、施設の非常に劣化が激しいということがありますので、まずここを現代風に耐えるようにスペースとして改築する、修繕するという案はありますね。

ではそれに対して、新しい館をつくるか、隣につくるか、あるいはこの敷地内につくるか、あるいは新しい館をつくるかどうかについても、まだきちっと出てないんですね。そういう議論をしていただければ、予算の点がありますけど、次の作業部会で、旧館を残す、東山魁夷館を残す、それから新館もつくる、場合によっては、大事なところだけ残して、ファサード(建物の正面)とか、記念碑的なところもありますから、中身は変えず他は変えてしまう、そういう検討にこれから入っていくだろうと思います。そこは、むしろここで方向を出していただいたほうが、作業部会がやりやすいだろうと。つまり旧本館は残せ、ただし必要な修繕を加える。別に全く新しい形の新館をつくる。そうすると、東山魁夷館があれば合計3つになりますよね。つながっていくか、別々かは問題。そういうことも議論していただければ、次の仕事が早いと思うんですね。まだどちらとも決まってないということなんです。

(赤羽委員)

ありがとうございます。6月7日の意見交換会にご出席なされた方からお話を聞きましたら、もう建てかえありきでもう進めているというごあいさつが冒頭あったということで、前回の検討委員会ではそんなことはなかったもので、それは話の中でまたこれから進められていくことだというお話は差し上げたんです。では、そのような私の理解でよろしいということですね。

(竹内委員長)

そうですね、まだ決まっていませんので。少し誤解されているかもしれません。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

ご指摘の件ですが、県としては、今回の検討委員会を始めるに当たって、「老朽化した信濃美術館を信州の文化芸術の拠点にすべく、建てかえを軸に整備検討」という言葉を使いました。建てかえの中にいろいろな理解がありますから、少し説明不足があったかと思います。今、委員長がおっしゃっていただいたように、全部壊して建替える案もありますし、それを残して大規模に改修するという事など、いろいろな手法を含めて、今、建てかえという言葉であらわしていただいておりますから、そういうことをご理解いただきたいと思います。

(赤羽委員)

ありがとうございました。

(竹内委員長)

ほかにご意見。

(興委員)

今、建物の話が出ましたので、建物の話を少ししたいと思います。前回の委員会の後に、施設内を見学させていただきました。前回の委員会の新聞を読ませていただいたら、私の意見が保存を求めているというふうに書かれていました。見学した後に思った感想としましては、東山魁夷館も手狭ですけれども、本館は建てかえるにしても、そこは残してもいいのかなと思いました。東山魁夷館は、作ったときの魂の入れ方が違うといいますか、寄贈者や設計者の方の精神が入っていたりすると思いますので、残してもいいのかなと思いました。

善光寺本堂の奥に須弥壇があるという、大事なものが奥にあるということなんですけれども、善光寺と一体化して考えるときに、東山魁夷館が本堂の須弥壇のように奥にあって、そこから包み込むような形で、前面に、より機能的で現代的な信州らしい美術館を、使う人の意見を取り入れて作っていったらどうかと感じました。

(竹内委員長)

一体感ということですね。

(興委員)

はい。

(竹内委員長)

ほかに。

(上山委員)

作業のやり方に対する意見にもなるんですけど、これを整備方針という名前と呼ぶのか疑問がある。整備というのは、特に役所の中ではハードの言葉です。今、意見が出ていたように、建てかえのときのハードの話みたいに読む方もいる。それから重要なのは、さっき副委員長もおっしゃいましたが、マネジメントの体制、企画力が、ここの美術館の場合はものすごく重要だと思う。東山魁夷館は、東山魁夷さんのコレクションがあるので、作品力がものすごくあるので、そんなに心配しなくてもいいと思うんですが、ほかの部分については、企画力が全て。さっきから話が出ているように、金沢・富山・東京との競争ということも考えると、学芸能力にお金をかけるべきであって、トータル工費がいくらとか、残すと高くつくとか、建てかえたほうが安いとか、その議論って、多分10億円単位の議論だと思うんです。学芸員の確保というのはそれをはるかに下回る金額でできるわけです。

ですから、私は今年の整備方針では、資料4で出ているようなコンセプトをつくるのは最後でいいと思うんです。私たちがつくった大阪の新美術館の場合、コンセプトは、仕事の仕方としては、最初に戦略を作り、コンセプトはその後に出す。ふわっとしたコンセプトは、最初につくらなかった。こちらの場合も、私はコンセプトは、今無理して書く必要はないし、書いてもありません。むしろ論点をむしろ全部このコンセプトの隣に書いていただく、例えばコレクションポリシーというの、最も重要なものです。2番目が運営能力、企画能力。3番目の集客戦略は、ここの場合は立地上極めて重要だと思うんです。それから立地戦略です。これは公園の話とか、善光寺の関係が出てくると思うし、前回、いい議論がいっぱい出た。このように、整備方針を考えるときに重要なポイントというのを普通に並べたらいいんじゃないかと思う。

もしかしたら各論だとおっしゃるかもしれないけど、そういう戦略は、私はそのもっと上位のものだと思うんです。コンセプトのもっと左側にある非常に重要な、必要条件、十分条件みたいなものを具体的に並べて、こうあるべきだと、あるいは現状こういう問題があるんだというのを

整理するべきだと思う。右側に書いてある機能とか、右端にあるのは、これ、基本戦略ではなくて、私は、かなり具体的な最後の話だと思うんです。こういうものはその先にぶら下がってくると思うんです。やはり、論点整理というのを、特にここの美術館の場合は非常にきっちりやらなといけなくて、よそがつくっているようなふわっとした資料4のコンセプトは、あまりそういう課題を抱えてない美術館向けなんです。

大阪の場合は、高度成長期に、300億円かけてコレクションを買いまくったわけです。ですから、コレクションパワーがものすごくあるというのがわかっていた。場所も、大阪大学の跡地の都心の場所がある。財政危機になったのでずっと建物を建てられなくて、放りっぱなしにしていた。第2美術館であって、天王寺にある古い公園の中の仏像の美術館じゃない、大阪版のMOMA（ニューヨーク近代美術館）、近代美術を買ったものをどかんと並べて東京に対抗しようという、都市戦略そのものなんです。ふわっと書くとこういう感じになる。それはコンセプトに書いてない。しかし、みんな、そういうことを考えている。だから、今回もそのレベルのことを考えなくてはいけない。コンセプトという言葉は、年度末には出す必要があるし、いろいろなことを考えると4つとか5つと出てくると思うんです。多分今はまだ早いんじゃないかと思うんです。

（竹内委員長）

結果として出ればいいと思うんですが、もう少し具体的に、例えば美術品収集方針、コレクションポリシーは、今までの資料の中では、信州にゆかりのあるもの、それから、東山魁夷コレクションがあるわけです。今後どうするか、例えばお金をかけるのか、予算をとらなくちゃいけないのか、それともこんな方法があるというようなことも少し話題にさせていただければと思います。立地だとか運営と少し離れるんですが、コレクションのイメージはいかがでしょうか。新しい美術館に対する期待はありますけれども。

（阿部県民文化参事兼文化政策課長）

参考資料4-2というところに、順番は大阪から出ていますが、よく例で出されます山梨県立美術館のミレーであったり、金沢21世紀美術館とか、他県の収集方針を整理させていただいてありますから、これもご参考に見ながら考えていただければありがたいと思います。

（竹内委員長）

4-2ですね。新しいコレクションをするにはお金もかかるわけですね。例えば建物に相当お金をかけて、建物としての魅力が十分だとすると、プラス、コレクションも世界的なものがほしいということになるのか。その辺のイメージを話していただければ、方向が出ると思うんです。

出にくいかもしれませんが、では建物を仮に新しく作るとしたら、こういうものがほしいとか、皆さんどんなことをお考えでしょうか。もちろん高さ制限とか、公園の規制があるわけなんですけれども。こういうイメージでやっていきたいというようなことが皆さんございますか。

（上山委員）

私、建築プロじゃないんで、建築家みたいなことは全然言えないんですが、公園との一体感でここまで徹底してやった例はないというのをぜひやっていただきたいです。例えばその公園の松が建物のど真ん中にまだ生えているとか、あるいは逆に、借景的にすばらしい、とんでもない庭が目の前にドンと広がるところでお茶を飲めるとかです。何かしら公園との一体感、そこまでやるかと、これは長野じゃないと、とても首都圏ではあり得ない建物とか空間だというのはぜひやっていただきたい。それから水です。どういう使い方があるのかわかりませんが、水をできるだけ見せる。贅沢だけでも、ここだとすごく周りの景色と溶け合っていると思うんです。だから

私は、お金をかけるかどうかかわからないけど、建物は公園との一体性も含めてかなり魅力的なものがったものにするべきだし、そうしないと、ほかの美術館との集客競争とか、コレクションの誘致競争に勝てないんじゃないかと思います。

(竹内委員長)

松本市の意見交換会でも出たんですけど、やはり公園の話がかなり出て、なるほどと思います。ここに今朝来てみますと、改めて、山がこんなに近くに見える県庁所在地というのはそうはないので、地元の方は気がつかないかもしれませんが、この立地条件はいいわけです。好んでなかなか選べないと思いますから、まず借景、善光寺を活かした中でのすばらしい庭園ができたらいいな。その中に、庭園に合う美術館といいますか。

この美術館は何で人を呼ぶか長い間考えているんですけども。その中で、やはり建物で人を呼ぶということはあるんですね。建物、あるいは庭園でも人が呼べると。例えばよく例に出される島根の足立美術館は、庭園で人を呼んでいるわけですね。僕も何回も行って、この程度の庭園で全国から人が来るのかなと思うんですけど。そんなに由緒はないんですよ。由緒はなくても、琳派の庭だとか、きれいだというところがありますから。お金はかかっているんです。だから、あれで人が来られるんだったら、メンテナンスはお金がかかりますけど、何億円出して新しい美術品を買うよりも、ここは一つ公園だと、美術館と公園ということが一つの売りということは思いました。松本市の公聴会のときにはその意見が出たので、やはり皆さん考えていることは同じだと思いました。その公園で一体になるような美術館があればいいですね。だから、庭も、今ある立ち木をどう活かすとか、いろいろありますけれども、ちゃんとしたもとに考えるといいだろうと。

それから考えてみれば、長野県には、自然が周りにあるせいか、いい庭園というのはないんです。本当に小さな、お城のところの何とか公園というのはありますけれども、大規模な庭園はなくて。こんないい公園があるんだったら長野市はいいなというような、そういう庭園があったらいいなと思います。今回の新しい美術館は、庭園というのが非常に重要な要素になるだろうと思っています。それが決まれば、その中に合う建物であれば、あとは建物の機能面だけ確認していけばいいと思うんです。庭園賛美論について何か。

(近藤委員)

私は大賛成で、庭園反対論は多分ないと思います。先ほど申し上げかけたのも、何がこの長野の新しい美術館の特徴かと言ったときに、建物の奇抜さでいくのか、それともここにしかない地の利を活かしたもののなのか、どっちかだろうと思うんです。当然、後者であって、先生おっしゃったように公園とこの大自然ですね、これはどこにも負けないものがあると思いますので、それは早いうちに決めておいて、その上で、例えば直島の安藤さんの地中美術館のような思い切ったこともあり得る訳です。いずれにしても周りの自然、特に公園と一体となっている。善光寺はすぐ横にあるわけで、これまた長野の強みですから、それもうまく活かしたものにするとすることは、早いうちに決められるんじゃないかと思うんです。

(竹内委員長)

ほかに、どうぞ。

(輿委員)

建物のことですけども、建物が町の雰囲気をつくるものになると思いますので、建物だけではなくて、周辺との調和とか、周辺の風景を損なわないように、風景を整える修景まで考えていきたいと思っています。景観的にも、町並みとしても、住民感情としても、善光寺を尊重していくこ

とはいいと思うんです。そこで、例えば、善光寺に合うような、善光寺の色調などを、落ちついた茶色の中から色を吸い取って持ってくるとか、善光寺からこの色はもらってきたとわかるような使い方をする建物もいいのではないかなと考えました。シンボリックな存在で、時代を超えてずっと人をひきつけてきた善光寺とともに存在していられるような建物になったらいいなと思います。歴史ある善光寺と文化を感じる美術館が、この辺りが一体となって文教的な地区になるような形になればと思います。

(赤羽委員)

私もこの城山公園と一体となった建物にしていくべきだと思います。現在ある東山魁夷館、この美術館も残していきつつ、上手に使っていければとは思っているんです。先ほど上山委員さんもおっしゃられたように、私は松本にいて、毎日、当たり前のように、ああ今日の常念はどんな顔かなと思いつつ見ているんです。外から来た人は、この山を毎日見られるんだね、すごいねという感じで皆さんおっしゃってくださるので、その山をどうにか皆さんに楽しんでいただけるような建物、どこから見てもこの山が見えるように、山も活かしながら公園の中に作っていったら、人が呼べるのではないかと思います。以上です。

(竹内委員長)

作業部会のごことがいつも頭にあるので、もう一步進めて、すばらしい公園と一体となった建物はいいいんですけれども、どうやって作るかということで、私のアイデアなんですけれども、先ほど島根の足立美術館の例を言いましたが、そのほかにも庭園を持った美術館というのはいくつかあるんですね。MOA美術館だとか、名古屋の徳川美術館も庭園を持っています。結論を言うと、由緒はそんなにないんです。金沢の兼六公園と石川県立美術館や、岡山の後楽園と県立美術館の関係がありますけれども、ああいうのは珍しいんであって、大概、新しい庭なんです。これは美術品と違うところで、そのときうまくやれば、見る人は、由緒があるからこの庭に行く、由緒がなかったから、最近のでっ上げの庭だから行きませんということではなくて、いいものだったらすぐ入る。由緒では来ないんです。うまくすればいい庭ができる。

私の希望なんですけれども、若手の造園家が大勢いるので、公募か指名かは別としても、できたら立派な造園作家に登場いただいてどうするかということの方が、1点1点の作品を苦勞して、何千万円、何億円と美術品を買うよりも、集客力は逆にあるような気がする。条件としては、この景色を活かすと。

それから、東山魁夷作品がありますので、その作品に合う、東山魁夷の絵のような公園をつくるというようなことを造園作家のほうに投げかけて提案していただくということもいいのかなと。それが仮にうまくいくと、善光寺、それから山、あるいは戸隠とか、その中で都市型の美術館でありながら、庭園を活かした美術館で作品とも合うということで、相当集客力が出るんじゃないかと。そして新しいその建物はまた考えればいいと思うんですが、いかがでしょうか。

(菅野委員)

私も、今日、新幹線に乗ってきて、同じ山でもあらわれる景色の山の形がみんな違う、それに感動してきたんですけれども、もう一つ、美術館のあり方として考えるのは、進化する形での美術館のあり方というものもあるんじゃないかと思うんです。庭園は生き物ですから変わっていく、変化していくということもあり、それから美術館というものも、それぞれの機能などが進化していく。最初に全ての完成形ができてくるというよりは、少しずつでき上がって、この次に来たとき、ここが変わっているかもしれないという楽しみが残っているような、そういう考え方にのっとった美術館のあり方、期待感のようなものを表現できるようなものができれば、大変すばらしいと思います。

それから町の中にも、敷衍（ふえん）していく、直島美術館もありますけど、プロジェクトがあることによって、町の中にもアートが広がっていくというあり方があって、私は、それは長野の町にとってはとても素敵なことではないかと、まちづくりにもかかわってくることと思います。美術館が一つだけぽんとあるのではなくて、関連性が町の中にも少しずつ見えてくるというあり方。それも、進化形の中で考えていけば、最初から全てがそこにあるのではなくて、徐々に、将来的なプランもこうあるのだという余地が残っているところがあってもいいのかなと思います。

（竹内委員長）

大事な意見ですね、そうですね。

（山岸委員）

今、菅野委員がおっしゃったこと、本当にそうだと思います。単純なことをお聞きしますけど、今、信濃美術館がありますよね。隣に、北側に東山魁夷館。その向こうに城山公園ふれあい広場というのがあって。その向こうに市民プールがあります。その手前に動物園がある。そういう一帯を、今の東山魁夷の絵に出てくるような公園を目指したときに、その辺まで含めた、周辺の都市計画というのも考えていかないと。善光寺に参拝して、それから素敵な庭を歩いて県立美術館、そうしたら、当然、流れは、奥にプールがありますと。そういうすばらしい動線ができればと思います。その辺も一緒に考えていただければと思います。

（竹内委員長）

今、全体はどんな関係になられているんですか。

（阿部県民文化参事兼文化政策課長）

前回の資料をお配りしますが、全体が城山公園ということで、長野市の都市計画の中の都市公園という形になっておりますから、噴水を含めたこの敷地以外にも、城山動物園、市民プール、テニスコート、少年科学センター、城山公民館、蔵春閣といった、市の施設が集中して集まっている地域になっております。

（竹内委員長）

ランドデザインという言葉がありますけれども、これからの調整によっては、このあたり全体を視野に入れたことも。

（阿部県民文化参事兼文化政策課長）

それについては、今日欠席ですけど、長野市の副市長も入っていただいておりますし、先ほど申し上げたプロジェクトチームが、美術館の敷地以外の周辺整備ということも一緒に協議させていただくということで、こういうご意見も反映させていただければと思います。

（竹内委員長）

はい、どうぞ。

（近藤委員）

東京の上野公園、あそこもいろいろな施設があって、動物園もあり、寛永寺もあり、美術館があり、博物館があり、音楽ホールがあり、それが有機的に活かされていないんです。何とかしようということいろいろやっているんですが、なかなかうまくいかない理由は、土地は、国の土地、都の土地、区の土地、民営地、お寺の土地、それではばらばらであるだけに何も一緒にできな

い。ここは県の土地と市の土地なのか、どういう状況か知りませんが、全体をマネジメントしていく、一つの組織が物事を決めていくような仕組みをつくる、そうしないと、単に複数の町など並列で議論をしていると物事が絶対に決まらないと思います。その辺を、早いうちから体制を整える必要があると思います。

(竹内委員長)

今、近藤委員がおっしゃったように、東京藝術大学は3者ですね。しかしまとまった施設とすると、例えばドイツの博物館島とか、ワシントンのスミソニアンとか、オランダの美術館なんかでも、公園と一体となって全体があるのはなかなかいいなと思うんですけども、もっと徹底して日本庭園の中にあるということは、もし長野市と県だけの地権者の問題だったら、お金の問題があるんでしょうけれども意外容易にいい結論で解決するかもしれないですね。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

ありがたいことに、土地は全部長野市さんの土地であり、私どもは無償でお借りしております。

(竹内委員長)

それから、コレクションポリシーで、皆さん自由なご意見ございますでしょうか。こういうものを集めたらどうかと。高校生から中学生、いろいろな作家の名前は出ているんですけども。具体的な作家の名前でなくてもよろしいんですが。

(上山委員)

作家名はさておき、議論しなくちゃいけない論点として、やはり長野県出身で世界的に有名な人たちの作品を積極的に買うのかどうかという議論だと思うんです。草間さんとか、具体名はいろいろあると思うんですけど。突出して有名な方がいる珍しい県だと思うんです。世界的に有名な人が全然ない県がほとんどですから、そういう意味では、草間さんをどう扱うのか、買えるときに買うのかみたいなことです。東山魁夷さんの作品は、この間もお買いになったと思うんですけど、草間さんの作品を積極的に買うのかどうか、集めていくのかどうか、これは避けられない論点だと思います。ほかの方の作品もそうかもしれない。

それで、さきほど県民ギャラリーの話がありましたけど、割と芸術活動が盛んな県だと思うので、その延長線上でも、やはり県が生んだ世界的作家の作品というのは、扱い方針を決めていかないといけないと思うんです。そうすると、整備方針となっていますけど、お金も結構かかるので、コレクションにどれくらい予算を割くのかとか、学芸にどれくらいの人件費を割くのかとか、それもトータルで、オペレーションコストも含めて、財務は最初から考えておいていただく必要がある。

話は脱線しましたが、もう一つ大事なことは、近現代の作品をどう扱うのかという議論があると思うんです。さきほどの高校生・中学生のアンケートを見ても、明らかに彼らは現代アートには興味あるけど、印象派より前のものは学校の授業で学ぶものだと思っている。それで県立だからということで、通史的な展示を、中世絵画もありとして全部並べてしまうのか、それとも割り切って、金沢みたいに近代美術館にしてしまうのかです。近代と言うかどうかは別なんですけど。隣に東山魁夷さんという、どの時代とも言いがたい、日本画とも西洋画とも言いがたいものがあるので、それとの関係も含めて、これは専門家も入れて議論したほうがいいと思います。

(山岸委員)

現代アートを購入というのは、とても賛成です。長野県出身で文化庁作家もいます。ただ、草間彌生というのは、今、松本市美術館での印象が強いからどうなのかなと思います。東山魁夷作

品のアピールをもっと打ち出す企画が欲しい。それと野外彫刻に関しては、長野市は年間予算にあわせ2, 3作品を芸術文化振興基金から購入されています。長野市と連携して、そういうものも、この県立美術館の周りにどんどん置いていただき市から新信濃美術館のために寄贈していただくのも楽しい構想です。

(金井委員)

ブレインストーミング的な自由な発言のタイミングだと思っています。草間彌生さんにもやはり大変興味があります。それから例えば、県内で、重要作家であるにもかかわらず、それほど知られていないという意味では、松澤宥（まつざわゆたか）さん。コンセプチュアル・アート、観念芸術の走りとして世界的な評価がある作家さんなんですけれども、やはり物として残りにくいことで、いま一つ、私たちが触れていない。松澤宥さんが、1960何年でしたか、信濃美術館でグループ展をされているんです。実はあれが1970年の東京ビエンナーレに先立つ、日本におけるコンセプチュアル・アート史の大きな出来事である。現象としては目立たなかったかもしれませんが、相応の意味があったということです。そういった館の歴史を検証するという意味においても、草間さんに加え、松澤さんの名がぱっと浮かぶかなと思いました。

それから近現代美術ということで、もうひと言。金沢は現代美術、それもいわゆるサイトスペシフィックな作品をうまく取り入れて一つの成功例をつくっている。逆に近代美術で言えば、富山はすばらしいですね。富山がつくったコレクションには、その時代だからこそというのがあり、あれは追いかけるのがない。さらに言うと、富山には瀧口修造という、美術を守り育てるその大立者がいたということ。郷土のアーティストですね。では長野はどうするか。金沢的な現代美術も、あるいは富山的な形も今さら難しいということで、菅野委員からお話があったところと若干重なるのですが、要するにワークインプログレスというか、オープンエンドな、何か完成して終わりにしないようなかたちを採っていくということはどうでしょうか。コンセプトとして極めて現代のアートに近い方法です。単に金沢を追いかけるとか、無理に富山の向こうを張るとか、そういうことじゃなくて、むしろコンセプトベースで現代アートの発想を我々が吸収して地域に広げていければ。そうすると、善光寺から奥のことだけ考える必要もないと思うんです。駅から善光寺の間をアートがつなぐというぐらいの柔軟な発想でここ（美術館）までたどり着いてもらうとか、発想自体をコンテポラリーアートにしていくほうが有効なんではないかと考えております。

(竹内委員長)

ありがとうございました。

重要で、皆さん心で思っていることで、まだこれからも続くと思うんですが、実際、具体的に誰がやるかということで、学芸員、もっと言えば館長ですね、そういう人の問題があります。誰がこれ実施するのかということで、やはり人の問題も重要。今、たまたま、指定管理者制度になっておりまして、悪く言うと、今のここの学芸員体制は、ほかの県と比べて脆弱化しているわけです。それを立て直して、そしてまた新しくとなるわけですので、早い時期に、どういう体制で、何名ぐらいの体制で、おおよそこうするというようなご意見も頂戴できれば。今から準備しないと、完成のときにファーストエキシビションが何も決まってないというのはいけませんので。特別展をやるとしたら、いろいろな出品交渉もしなくてはいけないし。人の問題もご意見もいただければと思うんですが。橋本さん、もしご意見あれば。

(橋本特別委員)

ソフト面とハード面は有機的に関連して、すばらしい内容のある美術館ができる、これは絶対不可欠な問題だと思います。私自身、先ほど出たMOAの美術館で15年前、400名ぐらいの舞台で

講演したんです。

(竹内委員長)

能舞台があります。

(橋本特別委員)

たくさん講演していますけど、能舞台で講演したのは初めてだったんです。私の専門から美術館・博物館に35年間、ずっと携わってきました。私の専門は美術教育、芸術教育です。これで館長を務めているのは、はっきり言って1人もいません。ですから、知事にお会いしたとき、どうぞ知事会でお伝えくださいと最初に言いました。こうやって長野県が新しい人材を館長に推薦して、新しいことを行う。新しい分野の人を館長に置いてやった。これは価値のあることだということだと思います。

それで、配布資料に専門性と書かれてあるので、一言申し上げます。学芸員の専門性というのは、博物館法でたくさん書いてあります。館長のことは書いてないんです。ということは、作家もいれば、学者もいれば、行政職員もいれば、委員長のように学芸員で館長さんになられた方。100館あれば100とおりの顔があっただけいいのです。ですから、要はその専門性を活かしていかにかマネジメントするか、その能力が専門性だと、私は常に思っております。そういった意味では、上山さんがおっしゃったように、私が強く言っているのは戦略なんです。戦略を立てようとするけど、戦国時代とした場合、私が着任したとき、500名ぐらいの戦力しかなかったんです。他館の2万人の圧倒的な兵と戦うのかと、来たときにそういうことを実感しました。

ところが制約が多過ぎる。私は大学人でしたから、言ったことはある程度実現してきたのです。改革もしてきたんです。この美術館は改革もできないくらい、あまりにも駒がなさ過ぎる。ですから、専門性なんて簡単に言いますが、研究、研修から教育普及、広報も含めて、そういう人材を分けるにも分けられない。ですから、私は今、館長として、その人材の中でよくやっていると評価しています。実は私が来たとき、県のプロパーが1人、事業団のプロパーが1人で2人です。何とかプロパーを増やしてくれと行って、1が1.5になり、2になり、去年の10月から3になったんです。これが現状です。私がクールにプロパーが3人ですなんて言うと、最初から3人いるような感じなんですけれども、私が着任して、1から1.5、2、3にしたところなんです。駒を増やさないと戦略も立てられません。

私は、この50年の住みかに住んでいます。夢にも出るほど、ソフト面とハード面の課題があります。ですから、いろいろなところでご意見を聞きながら、もう一度確かめている状態です。庭園論もそうです、公園論もそうです。動物園もそうです。

最終的なところへ行くと、ソフト面は早くしないとだめだと思います。新しいものができたからやろうではなくて、人は育てないとならない。それから、マネジメントはプロ中のプロ、大関・横綱を呼んだってできません。チームワークがとれて、地域の人と教育プロジェクト、企画プロジェクト、そういったプロジェクトを組むような、いわゆる外に向けたコミュニケーションのできる優秀な人材を集めないといけない。こういう会議だと、抽象論で専門性などとおっしゃるけれども、私はそういう抽象論は好きじゃないんです。ですから、具体的に何をやるか、そのためにどういう人と、どのような経験年数と人数が必要か、この辺をしっかりと考えていただければ、いいものができると思います。そう期待しております。

(竹内委員長)

ありがとうございました。

(5) 作業部会での検討事項について

(竹内委員長)

今、(3)と(4)の議題をまとめて整理したわけで、まだこの議論は終わったわけじゃありませんが、時間の関係もありますので、次の作業部会をどうするのかというところで、議題の(5)、資料5を事務局からご説明をお願いいたします。

(阿部県民文化参事兼文化政策課長)

資料5を説明

(竹内委員長)

このことについて、何かございますでしょうか。

(近藤委員)

これは施設整備ということでの5つの作業部会でいいと思います。ソフトの話、それは同時並行して議論して、キュレーターの話などしたいと思うのと、その関連で1点申し上げるのは、今度、阿部知事構想で長野県立大学をつくると言っておられます。そこに芸術学部がないと言っておられるので、私は絶対に芸術学部をつくってくれ、そこに学芸員の養成コースをつくってくれと言っております。世界の大学でもまだそれほど多くない、日本中でもないのに、県立大学に素晴らしいコースがあって、信濃美術館と一体となって人材を育成していく。それから海外の学芸員との交流もしていくと、日本美術を外で安心して貸し出せるようになる。そういうものをつくってくれと言っています。知事はなかなか十分にご納得いただけていないんですが、何らかの形でそれをこのグループからリードできないかなという提案です。

(竹内委員長)

おっしゃるとおりですね、学芸員の養成講座はありますが、それは単位制度でありまして、今まで学芸員のための大学院というのはないんです。ですから、東大大学院の文化資源学専攻でやっていますけれども、現役の学芸員たちも含めて、学芸員のための大学院みたいなことができれば、それは最高ですよ。

(上山委員)

4までは非常にやるのがすっきりしているんだけど、5のところは、今、まさに近藤委員おっしゃった部分と重なっている。もう少し論点整理をきっちりやる必要がある。というのは、上のほうにレストラン・ショップの望ましい規模と書いていますけど。これは運営形態によっては、もてあましてしまう。だからレストラン・ショップを真剣にやるとなった瞬間、いわゆる外郭団体や直営というのはあり得ないと思います。

要するにどこの機能をどれだけ中でやるのか、コレクションは自分で持って、学芸員も県で持つだろうと思う。ではそれ以外のところ、受付やお掃除は外注だと思うんですけど。ではその間の部分。これは一体どこに任せるのかという話と、上の施設の規模の話とはかなり密接一体になってしまっている。レストラン・ショップなどのサービス機能をどれくらい重視するのかということを含めてどう位置づけるかということです。大阪のときは、大都市だということもありますけど、基本戦略の中の3本柱の中の1個に入っていた。世界中を見ると、やはりレストラン・ショップというのはものすごく重要なものになってきているので、そういう意味で、レストラン・ショップ及びその運営形態というのは3、4から特出しして、別立てにしてもいいぐらいの話かなと思うんです。

それから基本設計等の事業者選定って書いてあるけど、こう書いてしまうと、デザイン・ビルドではなくてなくなってきてしまうんです。だから、ここの論点整理は県庁がきちりやらないとだめです。やはり従来型の建築家に、まずコンセプトを出させて、今度はできた図面でゼネコンに投げてという、基本設計、実施設計という流れにすごくこだわっておられる気がする。しかし、PFIだったらやり方は全然違うし、直営でやるにしたって、デザイン・ビルド方式だとここの段取りが変わってきます。デザイン・ビルド方式だったら、総額いくらと言って、コンセプトだけ全部渡したら、建築家の名前なんか出てこないで図面が上がってくる。だから仕事の仕方は全然違ってくる。5のところ、私は、作業部会に任せ切れないんじゃないか、県庁が相当かみ砕いてから、後出しで作業部会に仕事を出していく部分ではないかという気がする。

(竹内委員長)

少し論点整理しないとね。

(上山委員)

副委員長と県庁で相談していただかないと。ここはいろいろなものが全部ぶち込みになっていると思います。

(竹内委員長)

そうですね。はい、どうぞ。

(青木県民文化部長)

確におっしゃるとおり、私どもとすればまだまだ準備不足、検討不足の点がありますので、それにつきましては、これから十分詰めながら、お教えをいただきながら進めていきたいと思っています。一つに運営形態の話は、まさに県の行政改革とも連携する、連動する話となっております。現在の行政改革のプランが平成28年度までで動いているわけでございます。その後の話は、またこれから県全体としてどうするかということが視野に入ってまいりまして、そのときには、当然、美術館の指定管理者をどうするかも含めた議論が必要になってくるんだろうと思っております。

若干言い訳させていただきますと、私も行政改革課長を長年やってきたんですけども、指定管理者制度の現在の運用のスタイルが、どうもそのまま悪評にもつながっているというところがございます。必ずしも指定管理そのものが悪いわけではないかなど。指定管理の使い方には課題があるという部分が指摘されている。ただ、なかなか使いづらいという制度であるということも一部言われているのは承知しているんです。県全体の行政改革という枠組みの中でも、重要な位置を占めている施設でございますので、それも十分考えながら、ただ、現在の体制で十分なことができるかという問題意識も県庁内でも持っておりますので、文化振興全体に対する課題として受けとめているんです。私どもとすれば、お話のとおり、しっかり整理しながら並行作業をしていかなければいけないだろうなと思っております。

先ほど、上山委員さんからも言われましたレストラン・ショップの運営形態も、確かに直営ではなかなか難しい部分もありますし、それは少しうまく抜き出す形で、県としても並行して、どう考えていくかを、委員さんのご意見も伺いながら、詰めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(竹内委員長)

まだほかの重要な話も残っているかもしれませんが、とりあえず議題はここまでまいりましたので、今日の2回目の委員会はこれにて終わりにしたいと思ひます。次回のことも含めて、事務

局よろしくお願いいたします。長い間、どうもご苦労さまでした。

(6) その他

(竹村企画幹兼課長補佐)

竹内委員長、大変ありがとうございました。次回ということですがけれども、第3回は、9月9日の午前10時から予定をさせていただいておりますので、お願いをいたしたいと思います。今日も熱心なご議論をいただく中で、大きな宿題も含めて、いろいろお預かりしていると思いますので、この後、スケジュールにもありますとおり、9月9日までの間で2回ほど、金井部会長さんのもとで専門部会のほうを開かせていただく予定であります。宿題の部分も含めまして、委員長にもご相談し、場合によっては、その都度、検討状況等をご報告しながら、ご意見等を賜りながら、また9月9日を迎えたいということで考えておりますので、ぜひ引き続きよろしくお願いをいたします。

あと、1点、今回の整備検討委員会の公開の関係でございますけれども、第1回と同様に、議事録の案をまとめまして、事前にご確認をいただいた上で、またホームページでの公開をさせていただく予定でありますので、この点もご了解をいただきたいと思います。

4 閉 会

(竹村企画幹兼課長補佐)

それでは、以上をもちまして、第2回の長野県信濃美術館整備検討委員会、閉会とさせていただきます。まことにありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。